

## 「岩盤規制をドリルで突破」が間違いだったことを安倍総理は認めるべきでは？」

平成 29 年 8 月 15 日

### ●とろっこさんからの質問

安倍総理の内閣改造の記者会見を見ました。「経済の好循環をさらに加速しデフレ脱却を成し遂げる」は、今度こそ本当にやって欲しいと思います。ただ、初心に戻ると言いつつ、相変わらず途中でくっつけた「岩盤規制をドリルで突破」と言うことを強調してて、非常に心配になりました。

### ●西田昌司の答え

急激に支持率が下落したことを受けて今回、安倍内閣は第 3 次改造を行いました。無難で手堅い人事であると思いますが、とろっこさんがおっしゃるように、安倍内閣の一番の懸念はその構造改革志向にあります。

先日、ある野党側の議員と話す機会がありました。その議員は、いわゆる森友・加計学園問題に関して安倍総理を追及していた方ですが、驚くことにその方は安倍内閣が続くのは構わないという考えを持っていました。しかしそれに続けて、安倍総理の背後に竹中平蔵氏をはじめとする構造改革派が跋扈しており、彼らが安倍総理を操ろうと暗躍していることこそが問題だと指摘されていましたが、まさに私も同感でありました。

約 10 年前に第 1 次安倍内閣が発足した際、安倍総理は「戦後レジームからの脱却」を掲げられました。戦後レジームとは、現行憲法を柱とする法体系、戦前は全て間違っていたという自虐的歴史観、国防という国家主権を放棄してアメリカの軍事力に頼るといった戦後日本の体制を指します。国防を他国に頼って経済に邁進することで経済大国の地位を得るまでには至ったの

ですが、いくら経済が発展したといっても自分で自分の国を守れないような国は独立国とは言えません。占領期の吉田ドクトリンを、主権を回復した後も踏襲し続けたのは自民党にも大きな責任があります。そういった体制から脱却するのが安倍総理の目標でありましたし、であるからこそこれまでタブーとされてきた憲法改正の必要性についても憶することなく国民に堂々と語りかけているのです。

その一方で、安倍総理には現実主義の側面もあります。自民党が下野していた民主党政権時に、私は安倍総理と話す機会が多くありました。現在の日本におけるアメリカ追随の新自由主義は、日本のためにならないだけでなくアメリカのためにも、さらには世界中のためにもならないし、日本はそういったウォール街の強欲な資本主義ではなく瑞穂の国の資本主義を目指すべきだと2人で語り合ったものです。安倍総理はTPPについても非常に不快感を示されていましたが、いざ総理になると、「オバマ大統領との会談により、TPPでは聖域なき関税撤廃が前提ではないことが明確になりました」と発言されてTPP交渉に参加してしまいました。安倍総理も内心は複雑だったのでしょうが、アメリカという安全保障の後ろ盾となっている国の意向を無視しては政治が前に進まないという計算があったのだと思います。

竹中平蔵氏は小泉内閣のブレーンでしたし、安倍総理は小泉内閣の一員でもあったことから、安倍内閣にも構造改革路線が事のはじめからビルトインされてしまっている感があります。このように、安倍政権にはいろいろな要素が複雑に絡み合っていますので、それらを一つ一つ解きほぐして整理していかなければなりません。今回の改造内閣にはそういった仕事を是非ともやっていただきたいと思いますが、内閣の自浄作用に期待するだけでなく、私のような閣外の間人がしっかりと物を申していかなければなりません。

今回の改造内閣が失敗して自民党が下野するような羽目になってしまえばそれこそ安倍政権の終焉となってしまいますし、戦後レジームからの脱却どころではなくなってしまうと思います。喫緊の課題は安全保障の確立と経済の再生ですが、私も出来る限りのサポートをしていく所存であります。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>